

今回の取材内容

うごおたすけ隊（羽後町・小林SC、佐々木SC）

事務局が現地取材した内容をお伝えする取材編、第3号です。

今号から4回連続で県内の移動支援の取組をご紹介します。

県が把握する事例の中から、ここ数年で事業を始められた方へ、取組開始までの経緯を中心に取材しました。

今回は、社協所属SCのサポート事例をお伝えします。

羽後町「住民主体の取組、広がり期待」 有償ボランティアによる移動支援

定期ミーティング

LINE活用

買い物支援

【羽後町】移動支援の概要

運営主体	うごおたすけ隊 (住民主体+SCによるサポート)
対象者	町内の高齢者 (車の乗り降りやスーパーでの支払いが自身でできる方)
料金	1回500円
頻度	水・土曜日(事前予約制)
車輛・運転手	登録ボランティア(自家用車) ※希望があれば社協の公用車

取組の経緯

移動支援の取組を検討するきっかけになったのは、さわやか福祉財団に講師を依頼した助け合いフォーラムでした。有志による勉強会が立ち上がりましたが、当時(R2)はコロナ禍の最盛期。何度も中止や延期になり、思うように進められない日々が続きました。

感染症の流行もやや落ち着いたR3.10月に「とにかくやってみよう」という流れになり、町職員とSCが運転手として登録し、**試行**してみることに。R5.4月から本格的に活動開始しました。

料金は、最初から設定することに決めていました。町で買い物にタクシーを使えば5,000円くらいかかります。日頃の住民との付き合いから「**無料**では申し訳ない」と思われることが予想でき、むしろお金がかかった方が頼みやすいだろうと考えたからです。

R1
フォーラム開催

R2.1 勉強会

コロナ禍
延期・中止が続く…

R2.7 勉強会
R2.8 勉強会
R2.11 勉強会

R3.8
移動支援研修会

R3.10
移動支援試行実施

R3.12
移動支援研修会

R4.1~複数回
移動支援試行実施

取組のポイント

＼ IT活用 ／

運転手であるボランティアは、LINEグループで繋がっています。

LINEの日程調整機能を使い、月ごとに稼働可能日を確認する仕組みにしています。

＼ 対象者との面談 ／

現時点では、活動できるボランティアの数に限りがあるため、全ての申込には対応していません。

民生委員や地域包括支援センターの職員、ケアマネから相談があった方で、更に佐々木SCが面談して必要性があると判断した方に限っています。

＼ 定期ミーティングの開催 ／

月1回、活動ボランティアで集まる機会を作っています。新規申込者がいる場合には、その方について伝えたり、ボランティアが支援時のエピソードを話したり、情報共有の場になっています。

今後取り組みたいこと

現在は、申込が入るとSCがボランティアと調整して繋ぎ、料金も一度社協に集めるなど、SCがサポートする体制にしています。

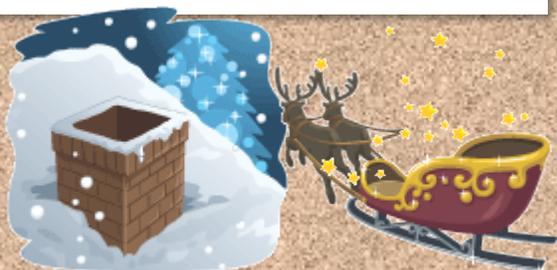
また、活動区域もボランティアをしてくれる住民がいる町中心部になっています。

今後、有償ボランティアの仕組みを知ってもらい、住民主体の取組を町内に広げていくことを目指しています。

SCとは

高齢になっても地域で暮らし続けるためには、地域に「医療」と「介護」、そして「生活支援・介護予防」の体制が必要だと考えられています。

そのうちの「生活支援・介護予防」の仕組みづくりを住民と一緒に進める役割を担うのが、SC（生活支援コーディネーター）です。



情報をお待ちしています

SCリレートーク＜取材編＞では、視察、会議の傍聴のほか、気になる取組の突撃取材など、様々な方向からの情報をお届けする予定です。

SCの皆さまが活動する際にヒントにさせていただけるよう、県内各地の「現地の雰囲気」をお伝えしたいと考えています。

「あの市町村の取組を詳しく知りたい」
「うちの町の〇〇サロンの取組が面白いので見に来てほしい」
・・・などなど、ぜひ、ご意見・ご要望をお寄せください。

皆さまからの情報をお待ちしています。